



週間情報



No.0233

発行日 令和2年10月6日

発行所 全国消防長会

一般財団法人全国消防協会

担当 企画部企画課 03(3234)1321

両会の動き

◆ 事務局職員の人事異動

全国消防長会

令和2年10月期の本会職員の人事異動について、下記のとおりお知らせします。

記

1 令和2年9月30日付異動

帰任（2名）

鳴澤 光偉 東京消防庁へ（事業部事業企画課財政担当係長）

小松 弘侍 東京消防庁へ（総務部総務課総務第一係主任）

2 令和2年10月1日付異動

着任（2名）

高橋 伸匡 事業部事業企画課財政担当係長（東京消防庁から）

本多 孝行 総務部総務課総務第一係主任（東京消防庁から）

◆ 違反是正支援アドバイザーを活用した「違反是正研修会」

愛媛県消防長会

愛媛県消防長会では、コロナ禍において3密を避け、入場時の体温管理や定期的な換気、フェイスシールドの着用など、徹底した感染防止対策を講じて、令和2年8月21日（金）に東予地区（新居浜市消防本部）、25日（火）に中予地区（東温市消防本部）、28日（金）に南予地区（西予市消防本部）と、3ブロックに分かれて「違反是正研修会」を開催し、合計106名の職員が参加しました。

この研修会は、違反是正に関する実践力の向上を図ることを目的としており、県違反是正アドバイザー（松山市消防局職員）が相談役として、県内の各消防本部が直面している違反処理の課題点や、今後の方向性について検討したものです。

参加者からは、「違反処理の経験が少ない中、関係者へのアプローチや折衝方法が大変参考になった。時機を逸することなく違反処理を進めていきたい。」などの感想が述べられ、非常に有意義な研修会となりました。



【徹底した体温管理】



【研修会（グループ検討）の状況】

◆ 消防実務講習会（北海道地区支部）を苫小牧市において開催

一般財団法人全国消防協会北海道地区支部

一般財団法人全国消防協会北海道地区支部では、令和2年9月24日（木）、苫小牧市にある苫小牧市民会館及び北海道旅客鉄道株式会社苫小牧運転所において、鉄道災害対策を目的とした消防実務講習会を開催しました。

当講習会では、北海道旅客鉄道株式会社より2名の講師をお招きし、「列車の運行管理と事故発生時の対応」及び「救助・消火活動時に必要な鉄道車両の知識」をテーマとした講演を実施しました。また、実車両を使用した「鉄道車両の視察」及び苫小牧市消防本部による「人身列車事故における要救助者の救出訓練」を実施し、全道から計57名の方々にご参加いただきました。

なお、コロナ禍での開催となることから、当講習会はソーシャルディスタンスの確保や手指消毒、検温の実施など、感染防止対策には万全を期して臨みました。

講習会の内容は、以下のとおりです。

○ 講演

1 「列車の運行管理と事故発生時の対応」

北海道旅客鉄道株式会社 運輸部運行企画課 グループリーダー 村上 伸樹 様

2 「救助・消火活動時に必要な鉄道車両の知識」

北海道旅客鉄道株式会社 車両部検修課 主席 紺野 敏之 様

○ 人身列車事故における要救助者の救出訓練

苫小牧市消防本部

指揮隊、特別救助隊、消防隊及び救急隊



【講演の様子】



【救出訓練の様子】

消防本部の動き

行事

◆ 無人航空機の寄贈

羽島郡広域連合消防本部（岐阜）

羽島郡広域連合消防本部では、令和2年9月15日（火）、岐阜東南ロータリークラブ様から、災害時の情報収集や行方不明者の捜索に役立ててほしいと、無人航空機2機と外部モニター等を寄贈していただき、笠松みなと公園で寄贈式及び訓練展示を行いました。

訓練展示では、1級河川木曾川での水難事故を想定し、ドローンと水難救助隊が連携した救助活動を行いました。当消防本部でのドローン配備は初めてのことで、操作訓練等を重ね、10月より運用開始となりました。

近年、地震や集中豪雨による災害が各地で発生しており、これまで比較的自然災害が少なかった当消防本部管内でも、いつ大規模な災害が発生してもおかしくない状況です。多様化する災害に対し、住民の安心・安全を守るために、無人航空機を最大限に活用してまいります。



【寄贈式の様子】



【訓練展示の様子】

訓練・演習

◆ 令和２年度座間市総合防災訓練を実施

座間市消防本部（神奈川）

座間市消防本部では、令和２年９月５日（土）、市立相模野小学校で座間市総合防災訓練を実施しました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、県及び他市では、防災訓練の中止・縮小が相次ぐなか、当市では感染防止対策を徹底した上で、防災関係機関３０団体と連携し、例年通りの規模で実施しました。昨年甚大な被害をもたらした台風第１９号による風水害を教訓として、市内を流れる相模川の氾濫が起こり建物に人が取り残されていると想定し、消防団によりアルミボートを活用した水災害対応訓練を行いました。

訓練を通して、自主避難の重要性を訴えることで、災害対応の知識の向上を図るとともに、防災意識を高めることができました。



【訓練の様子】

◆ 集団災害救急訓練を実施

三木市消防本部（兵庫）

三木市消防本部では、令和２年９月１０日（木）、当消防本部訓練場で、集団災害救急訓練を実施しました。

この訓練は、救急医療週間に合わせ毎年実施しています。今年は、駅前ロータリーで車両が歩行者数名を巻き込む交通事故を起こしたとの想定で訓練を実施しました。指揮隊、救急隊、消防隊など全８隊が出動し、集団災害のＣＳＣＡＴＴＴ（指揮・統制、安全、情報伝達、評価、トリアージ、治療、搬送）について、各部隊の連携を確認しました。

回数を重ねるごとに職員間での共通認識が確立されていますが、さらに現場活動の質を高められるよう、引き続き訓練に取り組んでまいります。



【訓練の様子】

◆ チェーンソー取扱講習を実施

鹿島地方事務組合消防本部（茨城）

鹿島地方事務組合消防本部では、令和2年9月10日（木）、11日（金）の2日間、当消防本部波崎消防署で、労働安全衛生規則の一部改正の内容確認と、チェーンソー取扱い時の安全対策強化を目的に、ハスクバーナ・ゼノア株式会社から講師を招き、チェーンソー取扱講習を実施しました。

座学では、チェーンソーの基本構造及び点検要領を確認し、実技では、鋸断時の作業姿勢や留意点について学びました。今後も職員の事故防止のため、安全管理教育の徹底に努めてまいります。



【講習の様子】

◆ 解体予定建築物を活用した救助訓練を実施

土浦市消防本部（茨城）

土浦市消防本部では、令和2年9月9日（水）から15日（火）までの間、震災時の活動における救助技術の向上と、高層建物での救助事案に対する対応力向上を目的に、解体予定の県有施設（RC造5階建）にて救助訓練を実施しました。期間中は、三連はしご・かぎ付きはしごを使用した進入訓練、高所からの救出訓練、ドア破壊訓練、屋内進入検索訓練、ブリーチング訓練を行い、施設を活用した、より実践的な経験を積むことができました。今後も訓練を継続し、市民の安心・安全のため救助技術の向上に努めてまいります。



【高所救出訓練】



【ブリーチング訓練】

研 修 等

◆ 救助研修会を開催

熊谷市消防本部（埼玉）

熊谷市消防本部では、令和2年9月10日（木）、11日（金）の2日間、埼玉トヨタ自動車株式会社から講師を招き、ハイブリッド自動車及び水素自動車の交通事故発生時の対応について研修会を開催しました。

これらの車両の交通事故に伴う救助活動では、感電等による二次災害が考えられることから、その対策法を学ぶため研修会を行いました。車両概要の講義を受けた後、エアバッグの作動実演をはじめ、ハイブリッド自動車及び水素自動車の実車を確認しながら、救助活動時の注意事項等を説明していただき、危険要素を把握することができました。

参加者からは、「この研修で得た知識を現場活動に生かし、要救助者を安全、確実、より迅速に救助することにつなげられる。」との意見が聞かれ、とても有意義な研修会となりました。



【研修会の様子】

◆ 「次世代自動車等事故発生時対応研修会」を開催

茨城西南地方広域市町村圏事務組合消防本部（茨城）

茨城西南地方広域市町村圏事務組合消防本部では、令和2年9月10日（木）、11日（金）の2日間、救助隊員及び特別消火指導員を対象に「次世代自動車等事故発生時対応研修会」を開催しました。

この研修会は、茨城トヨタ自動車株式会社のエンジニアにご協力をいただき、火災時の対応や、交通事故等で乗員の救助が必要な際に、高電圧バッテリーによる二次災害を避け、安全かつ迅速に活動できるようにすることを目的に行いました。

座学では、消防活動上の注意事項等を把握し、実技では、実車を用いてハイブリッド車（PHV）と燃料電池自動車（MIRAI）の構造、バッテリー等の位置、救助活動時の切断可能箇所の確認を行いました。今後も、隊員の安全及び地域住民のサービス向上を目的に知識・技術の研鑽に精進してまいります。



【研修会の様子】

その他の

◆ 木更津市消防表彰感謝状贈呈式を実施



【感謝状贈呈後の記念撮影】

木更津市消防本部（千葉）

木更津市消防本部では、令和2年9月11日（金）、救急事案において救命処置を行った協力者に、消防長から感謝状を贈呈しました。

この事案は、令和2年8月27日（木）、商業施設内で突然倒れた男性に対し、買い物客1名及び従業員2名が救急車到着前に救命処置（胸骨圧迫・AED使用）を行ったものです。

協力者の冷静な判断と迅速な行動により、救命の連鎖につながり、男性は社会復帰することができ、尊い命が救われました。

◆ 消防協力者に感謝状を贈呈

習志野市消防本部（千葉）

習志野市消防本部では、令和2年9月15日（火）、心肺停止傷病者を救った消防協力者及び団体に対し、消防長から感謝状を贈呈しました。

当事案は、令和2年7月16日（木）、当市内の路上で、60代の男性が突然意識を失い倒れたところ、居合わせた袖ヶ浦こども園職員と通行人2名が迅速に119番通報し、胸骨圧迫及びAEDを使用した救命処置を実施しました。救急隊到着後、救急車で心拍が再開し、「救命の連鎖」により、男性の社会復帰につながりました。

また、今回の消防協力者全員が、当市の普通救命講習を受講していたことから、普通救命講習の啓発をより一層図ってまいります。



【感謝状贈呈の様子】



【左から消防長、袖ヶ浦こども園職員、消防協力者2名】

◆ 危険物施設完成検査に合わせ教養を実施

東京消防庁（東京）

東京消防庁練馬消防署では、令和2年9月8日（火）、管内のガソリンスタンドの変更許可に伴う完成検査を実施しました。

このガソリンスタンドは、セルフ化に伴い当庁管内初のタブレット型の制御機器が導入されました。当日は、当庁予防部危険物課、第十消防方面本部とともに、機器の仕様やタブレット型端末による給油許可の可能範囲が基準通りであるか確認しました。また、完成検査に合わせて「位置・構造・設備の基準についての教養」を実施し、受講者からは、「実際の危険物施設を法令と照らし合わせて確認できイメージしやすかった。今後の予防行政に生かしていきたいです。」等の声が聞かれました。



【タブレット型制御機器の確認状況】



【固定泡消火設備の確認状況】

◆ 「それゆけ！キッズ救急隊」ダンス動画配信「それQ（救）を歌って踊ろう」

横浜市消防局（神奈川）

横浜市消防局では、近年、増加傾向にある救急需要を踏まえ、救急車の利用への理解や、#7119などの普及啓発を目的とした、子ども向けダンスソング「それゆけ！キッズ救急隊」の動画を作成し、令和2年9月9日（水）（救急の日）に動画共有サイトYouTubeで配信を開始しました。

動画はURLまたはQRコードからご覧ください。https://youtu.be/74hLW1_ELHw
(動画の特徴)



- ・子どもたちが歌って踊って元気に楽しく、救急活動の実態や救急サービスの利用について学ぶとともに、動画を一緒に視聴する保護者の方にも、理解を深めていただける内容です。
- ・作詞、作曲を消防職員が手掛け、ダンスの振り付けを市内保育園の保育士が考案し、撮影や動画編集などは、全て消防職員が手作りで完成させました。
- ・横浜市出身である、タレントの石塚英彦さんにも特別出演していただいています。



【動画のひとコマ】

◆ オンラインで感謝状を贈呈 ～オンラインでつながる感謝の気持ち～

羽咋郡市広域圏事務組合消防本部（石川）

羽咋郡市広域圏事務組合消防本部では、令和2年9月9日（水）（救急の日）、新たな試みとしてオンラインでの感謝状贈呈式を行いました。

この感謝状は、管内の登山道で発生した救急救助事案で、愛知県から来た観光客が、熱中症の症状がある50代女性を発見し、早期の119番通報、応急手当を行った功績に対して贈ったものです。

贈呈式は、コロナ禍で培ったオンライン会議のノウハウを応用し、その場で感謝状を渡しているかのような臨場感のある感謝の気持ちがこもったものとなりました。

この贈呈式を契機に、「新しい生活様式」に適応した業務の遂行に取り組んでまいります。



【贈呈式の様子】



【感謝状贈呈の様子】

◆ 地元テレビ局の協力を得て「119番通報のあり方」についてPR！

泉州南消防組合泉州南広域消防本部（大阪）

泉州南消防組合泉州南広域消防本部では、令和2年9月9日（水）、風水害や大地震等の災害時の「119番通報のあり方」について、地元テレビ局「J：COMりんくう」の協力のもと、啓発広報を実施しました。

収録は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に配慮して、Web方式で行いました。放送は、大災害時の119番通報についての内容で、「平成30年9月4日（火）の大阪府泉州地域に大きな被害をもたらした台風21号の当時の状況」、また、今後の対応として新たに取り組んでいる「非常時コールセンター」、「指令センター員による119番出張講座」などをテーマにさせていただきました。

今後も様々な方法で、一人でも多くの方に119番通報の重要性について理解していただけるよう広報を継続してまいります。



【Web方式による収録の様子】

◆ 「救急の日」啓発事業を実施



【給食時の広報活動の様子】

宝塚市消防本部（兵庫）

宝塚市消防本部では、令和2年9月9日（水）、市立小学校の児童を対象に、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として小学校の放送施設を利用し、リモートで救急に関する広報活動を実施しました。

今回の広報活動は、実施時間が5分間という短い放送時間でしたが、給食時間中に児童が全員モニター側に向かって座り、食事をしながら視聴し、9月9日が「救急の日」ということを知ってもらえる良い機会になりました。

広報活動を行った救急隊員も、小学生の元気な姿を見てモチベーションが上がり、今後の現場活動の励みになりました。

◆ 救急活動協力者に感謝状を贈呈

上田地域広域連合消防本部（長野）

上田地域広域連合消防本部では、令和2年9月11日（金）、救急活動協力者2名に対し、感謝状を贈呈しました。

この事案は、令和2年2月19日（水）、東御市内の事業所を訪れていた男性が突然倒れたところ、その場に居合わせた従業員や関係者により、迅速な通報、的確な胸骨圧迫、AEDによる除細動などが行われたものです。この男性は、救急隊到着時には、呼吸、脈拍が再開しており、病院での治療後、後遺症もなく社会復帰されました。

今回の救急活動協力者2名は、毎年救命講習を受講されていました。2名の勇気ある行動と、適切な処置により尊い命が救われたことに感謝するとともに、今後さらに応急手当の普及啓発活動に力を入れてまいります。



【感謝状贈呈の様子】



【贈呈式後の記念撮影】

◆ 救急標語を募集しポスターを作成！

尼崎市消防局（兵庫）

尼崎市消防局救急課では、市内の小学6年生を対象に、「応急手当」及び「予防救急」のテーマで救急標語を募集し、応募総数1,388作品の中から、それぞれ最優秀賞1作品、優秀賞2作品を選出しました。選出された作品は、「救急標語ポスター」として作成し、救急医療週間に、市内各所で掲示しました。

これは、今年度から始めた新たな取り組みで、児童が家族と一緒に標語を考案することや、市民が掲出されたポスターに触れ、救急業務への理解と認識を深めていただくことを目的に実施しました。今後も、救急行政が抱える課題について市民の皆様とともに解決し、よりよいまちづくりを推進するよう努めてまいります。



【救急標語ポスターと塵芥車及びヤクルト販売自転車への掲示の様子】

国等の動き

消防庁通知等

◆ 移動タンク貯蔵所における事故防止の徹底について

（消防危第239号、令和2年9月25日）

消防庁危険物保安室長から公益社団法人全日本トラック協会会長、日本貨物運送協同組合連合会会長、日本危険物物流団体連絡協議会会長あてに通知が発出されましたので、お知らせします。

日頃より、危険物施設における保安確保に御尽力を賜り感謝申し上げます。

今般、走行中の移動タンク貯蔵所から出火し、移動貯蔵タンクの一部が破裂する火災が発生しました。（別添参照）（別添省略）

事故原因等については、現在、火災発生場所を管轄する消防本部において調査中ですが、移動タンク貯蔵所の火災や流出事故の発生を防止するため、危険物取扱者等による移送開始前の点検、運転要員の確保、必要な応急措置等を徹底することが重要です。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/200925_kiho_2.pdf) に掲載されています。

消防庁危険物保安室

担当：齋藤、平野、秋山

TEL：03-5253-7524（直通）

FAX：03-5253-7534

E-mail：fdma.hoanshitsu@soumu.go.jp

◆ 外国人・障害者に円滑に対応するための取組に係る現況調査の結果について

(事務連絡、令和2年9月30日)

消防庁消防・救急課、救急企画室、防災情報室から各都道府県消防防災主管部あてに事務連絡が発出されましたので、お知らせします。

平素から、消防防災行政の推進についてご尽力をいただき、厚く御礼申し上げます。

標題の件につきまして、「外国人・障害者に円滑に対応するための取組に係る現況調査の実施について（照会）」（令和2年6月16日付け事務連絡）による、消防本部における「三者間同時通訳」、「多言語音声翻訳アプリ」及び「Net119 緊急通報システム」の導入状況に関する調査結果を、別紙のとおり情報提供します。（別紙省略）

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/20200930_syoukyu.pdf) に掲載されています。

(連絡先)

「三者間同時通訳」について

消防・救急課 渡辺係長・五十川事務官

電話：03-5253-7522

「多言語音声翻訳アプリ」について

救急企画室 山口係長・勝俣事務官

電話：03-5253-7529

「Net119 緊急通報システム」について

防災情報室 中川係長・千賀事務官

電話：03-5253-7526

◆ 「消防法施行規則第三十一条の六第七項第六号の期間を定める件の一部を改正する件」等の公布について

(消防予第312号、令和2年10月1日)

消防庁次長から各都道府県知事、各指定都市市長あてに通知が発出されましたので、お知らせします。

「消防法施行規則第三十一条の六第七項第六号の期間を定める件の一部を改正する件」（令和2年消防庁告示第12号）、「消防法施行規則第四条の二の四第五項第六号の規定に基づき、同号の期間を定める件の一部を改正する件」（令和2年消防庁告示第13号）及び「消防法施行規則第五十一条の十二第四項第六号の規定に基づき、同号の期間を定める件の一部を改正する件」（令和2年消防庁告示第14号）が、令和2年10月1日に公布されました。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/201001_yobou_312.pdf) に掲載されています。

(連絡先)

消防庁予防課

担当：桑折課長補佐、五味

TEL 03-5253-7523

FAX 03-5253-7533

報道発表

◆ 令和2年度消防防災科学技術賞受賞作品の決定

(令和2年9月25日、消防庁)

この度、令和2年度「消防防災科学技術賞」の受賞作品を決定しました。

本表彰制度は、消防防災機器等の開発・改良、消防防災科学に関する論文及び原因調査に関する事例報告の分野において、優れた業績をあげた等の個人又は団体を消防庁長官が表彰することにより、消防科学技術の高度化と消防防災活動の活性化に資することを目的として、平成9年度から実施しています。

令和2年度においては、全国の消防機関、消防団、消防機器メーカー等から総計98編（消防防災機器等の開発・改良56編、消防防災科学論文22編、原因調査事例20編）の応募があり、選考委員会（委員長 山田 實 元横浜国立大学リスク共生社会創造センター客員教授）による厳正な審査の結果、別添の23編を受賞作品として決定しました。（別添省略）

表彰式は、下記の日時・会場にて執り行います。また、表彰式の終了後、受賞者による作品の発表が、第68回全国消防技術者会議（消防研究センター主催、同日午後、オンライン開催予定）の中で行われます。

なお、全国消防技術者会議の詳細は、消防研究センターホームページ

(<http://nrifd.fdma.go.jp>) に掲載されます。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(<https://www.fdma.go.jp/pressrelease/houdou/items/f6b1ced6e04e919433aaa7e57f12220a9e4796db.pdf>) に掲載されています。

連絡先

消防庁消防研究センター

研究企画室：滝・深津

TEL 0422(44)8331

FAX 0422(42)7719

◆ 令和2年8月の熱中症による救急搬送状況

(令和2年9月29日、消防庁)

熱中症による救急搬送人員について、令和2年8月の確定値を取りまとめましたので、その概要を公表します。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(<https://www.fdma.go.jp/pressrelease/houdou/items/neccyuusyou8gatu.pdf>) に掲載されています。

(連絡先)

消防庁救急企画室

担当：神谷、増田、吉岡

電話：03-5253-7529

FAX：03-5253-7532

◆ D I C株式会社が受けた型式承認の失効

(令和2年9月30日、消防庁)

消防庁は、本日、消防法（昭和23年法律第186号）第21条の6第1項第1号の規定に基づき、D I C株式会社が受けた型式承認（平成25年4月11日付け消防許第211号。型式番号：泡第25～1号）の効力を失わせる行政処分を行いました。

詳細は下記のとおりです。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(https://www.fdma.go.jp/pressrelease/houdou/items/200930_yobou_01.pdf) に掲載されています。

連絡先	: 消防庁予防課
担 当	: 千葉専門官、桑折課長補佐
電 話	: 03-5253-7523
F A X	: 03-5253-7533

◆ 「令和3年度危険物安全週間推進標語」及び「令和2年度危険物事故防止対策論文」の募集 (令和2年10月1日、消防庁)

消防庁では、危険物を取り扱う事業所における自主保安体制の確立を図り、危険物の保安に対する意識の高揚及び啓発を推進するため、「令和3年度危険物安全週間推進標語」及び「令和2年度危険物事故防止対策論文」を募集します。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(https://www.fdma.go.jp/pressrelease/houdou/items/201001_kiho_1.pdf) に掲載されています。

連絡先	消防庁危険物保安室 勝本課長補佐 菊地係長、村岡事務官
TEL	03-5253-5111(代表)
TEL	03-5253-7524(直通)
FAX	03-5253-7534

情報提供

◆ 令和2年度「屋外タンク実務担当者講習会」開催案内

危険物保安技術協会

昭和52年（1977年）の消防法改正により、特定屋外タンク貯蔵所の基準が大幅に整備され、開放点検等が義務付けられ既に40年以上が経過しました。この間、地震災害や設備の経年劣化等が要因となり、火災、爆発、流出等の事故が何度となく発生しましたが、その都度、これらの事故を教訓として屋外貯蔵タンクの技術基準が見直され、安全対策等の整備が進められてきました。

また、近年、高度経済成長期に建設された屋外タンク貯蔵所などは、老朽化が進み維持管理のあり方が課題となっており、さらにソフト面では、保安の確保や技術の伝承が重要な課題となっております。

本講習会では、これらの課題を踏まえ、技術基準の重要性と安全を重視した維持管理のあり方に焦点を当て、事例等に基づいた実務的な要素を取り入れ、適切な審査等に関する知識・技術の習得を目的とし、下記のとおり開催いたします。

なお、今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、Webによる配信といたします。

記

1. 主催

危険物保安技術協会

2. 協賛

全国消防長会、石油連盟、石油化学工業協会、日本非破壊検査工業会

3. Webによる配信期間等

(1) 配信期間

令和3年2月1日（月）から令和3年3月31日（水）

(2) 受講方法

ご入金確認後、受講申請者に対し、閲覧方法を書面で送付いたします。

(3) テキスト

テキストは受講者に送付いたします。

4. 受講対象者

主に、屋外タンク貯蔵所を保有する事業所、タンクメーカー、非破壊検査会社及び消防機関等の屋外タンク貯蔵所に係る業務に携わる方を対象としていますが、特に限定はいたしません。

5. 受講料

15,400円

*テキスト代・送料・消費税を含む。

6. 開催プログラム

時 間	内 容	講 師
(60分)	(1) 屋外貯蔵タンクに係る基準の概要	危険物保安技術協会 タンク審査部
(60分)	(2) 特定屋外貯蔵タンクの浮き屋根の点検及び水張試験の合理化に係る技術援助について	
(60分)	(3) 屋外貯蔵タンクの開放点検状況等について	

7. 受講手続き

(1) 申し込み

ア. 当協会ホームページ「屋外タンク実務担当者講習会」にアクセスし、インターネットによりお申し込み下さい。折り返し受付完了メールが自動配信されます。（<http://www.khk-syoubou.or.jp/seminar/3.html>）

なお、インターネットでのお申し込みが難しい方は、「屋外タンク実務担当者講習会」事務局（電話：03-3436-2357）あて、お問い合わせください。

イ. 令和2年11月30日までにお申し込み下さい。

(2) お問い合わせ先

申し込み手続き等不明な点につきましては、下記にお問い合わせ下さい。

8. 個人情報の取扱い

危険物保安技術協会は、取得した個人情報をお問合せの回答及び講習会等の開催案内、その他これらの業務に附随する業務のみに利用します。

9. 講習会の延期または中止

受講申請者数が所定の人数に満たない場合は、講習会の延期または中止とさせていただくことがあります。講習会を延期または中止とした場合の連絡方法は、電子メール、当協会ホームページからの一斉連絡とさせていただき、個別連絡は省略させていただきます。

連絡先

[	〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-3-13 ヒューリック神谷町ビル1階	]
	危険物保安技術協会 屋外タンク実務担当者講習会事務局	
	TEL：03-3436-2357 E-mail： kensyu@khk-syoubou.or.jp 担当：佐藤、高橋	

◆ 令和2年度危険物事故防止対策論文募集

消防庁・危険物保安技術協会

危険物を取り扱う事業所や消防関係行政機関等で行われている事故防止や安全対策の活動などについて広く論文を募集します。どなたでも応募できますので、積極的なご応募をお待ちしております！

1 論文の内容

危険物に係る事故防止や安全対策に関するもので、次のようなもの

- | | |
|--------------|-------------------------|
| ①提言、アイデア、経験等 | ②職場等の安全対策 |
| ③事故の拡大防止 | ④事故防止に係わる知見の蓄積・教育方法 |
| ⑤事故の分析 | ⑥安全対策技術 |
| ⑦危険性評価手法 | ⑧危険物、少量危険物及び指定可燃物に係わる安全 |
| ⑨安全の科学技術 | ⑩事故防止対策・安全対策に関するその他のもの |

2 応募締切 令和3年1月29日（金）必着

3 選考方法

学識経験者、関係行政機関の職員等による審査委員会において、厳正な審査を行います。

4 賞

消防庁長官賞	賞状及び副賞（20万円）	<2編以内>
危険物保安技術協会理事長賞	賞状及び副賞（10万円）	<2編以内>
奨励賞	賞状及び副賞（2万円）	<若干名>

※ 副賞は危険物保安技術協会からお渡しいたします。

5 応募方法

ア 論文は、日本語で書かれたもので未発表のものに限ります。ただし、限られた団体、組織内で発表された場合は応募可能とします。（一部に限り、既発表の部分を使用する場合は、その旨を本文中に明記してください。）受賞論文は、危険物保安技術協会のホームページに発表されますので、必要に応じて関係者の事前の了解を取ることをお願いします。また、著作権等の問題を生じないようにご注意ください。

イ A4（字数換算：1ページあたり40字×40行程度）1枚以上10枚以内程度としてください。

なお、図表及び写真は、文中への挿入、本文と別に添付のいずれも可能です。ただし、本文と別に添付する場合に、字数換算をA4（1ページあたり1,600字程度）で行い、全体を10枚相当分以内程度としてください。

ウ 論文の概要を添付してください。

エ 論文は、「論文タイトル」、「氏名（ふりがな）」、「連絡先（住所、電話番号、FAX番号、E-mailアドレス）」及び受賞論文発表時に明記する勤務先等がある場合の「勤務先名称及び所属」を記載した用紙を添付のうえ次のあて先（E-mail可）までお送りください。

オ 共同で取り組んでいる活動の場合には、連名の応募も可としますが、代表者が分かるように記載ください。

カ 論文は、返却いたしません。

6 あて先及び問い合わせ先

危険物保安技術協会 事故防止調査研修センター

〒105-0001 東京都港区虎ノ門四丁目3番13号 ヒューリック神谷町ビル

Tel 03-3436-2356 Fax 03-3436-2251 <http://www.khk-syoubou.or.jp/>

協賛

全国消防長会、一般社団法人日本化学工業協会、石油化学工業協会、石油連盟
電気事業連合会、一般社団法人日本鉄鋼連盟、一般社団法人日本損害保険協会
公益社団法人日本火災学会、全国石油商業組合連合会（順不同）



オンライン第24回 JFFW 交流会

～オンラインで繋がろう～

“J F F W”は、J a p a n F i r e F i g h t i n g W o m e n ' s C l u bの略で、女性消防吏員が中心となり研修会等を実施しています。毎年実施される交流会では、全国から消防職員が自主的に集まり勉強会や情報交換を行い、消防本部の枠を越え消防職員相互の親睦を深めるとともに自己研鑽を図っています。

今年のJ F F W交流会は、7月4日に青森県で開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催を延期いたしました。

そこで、今年はオンラインでJ F F Wを開催することいたしました。オンラインは苦手、不安という方も参加できるよう事前のマニュアル配布などサポート体制を整えています。

今回はアンコンシャスバイアス研究所代表理事の守屋智敬氏を講師としてお招きし「アンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）」についてご講演いただき、グルーブトークを交え楽しく学びながら交流を深めます。

1 日時

令和2年10月31日（土）14時00分から16時00分まで

2 内容

セミナー 『無意識の思い込みを知ろう ～ひとりひとりがイキイキと活躍することをめざして～』

講師 アンコンシャスバイアス研究所代表理事 守屋智敬氏

3 参加者

全国消防吏員及びOB等支援者で参加を希望する方

参加申し込み定員 200名（定員になり次第締め切らせていただきます）

4 申し込み

ホームページから申し込みができます。 <https://club-jffw.com/>

（オンライン申し込みのパスワードは『jffw777』です。）

5 参加方法

zoomを使用します。（運営：㈱モリヤコンサルティング）

※通信料や接続安定化のため必ずWi-Fi環境下で接続してください。

パソコンのほか、スマホ、タブレットでも使用できます。

6 参加費

1,000円



申し込みHPは↑こちら↑

問い合わせ先 J F F W交流会事務局

川崎市消防局 査察課 熊谷/044-223-2702

相模原市消防局 警防課 野口/042-751-9141

機関誌「ほのお」記事募集

一般財団法人全国消防協会では、機関誌「ほのお」に関して、各消防本部より次の投稿記事を募集しています。

①トップ・セカンド記事

②知識・技術の伝承—教えて！消防技術—

③女性職員の活躍推進

※①・②・③の執筆要領等の詳細は、週間情報No.0117又は機関誌「ほのお」2019年4号（4／25発刊）33ページを参照願います。

TEL：03-3234-1321 機関誌「ほのお」担当：企画課 田島

原稿データは、kikakeikaku@fcaj.gr.jpに送信願います。

④消防ワイド

- ・文章は、Wordで150文字程度（160文字以内）で作成をお願いします。
- ・写真は、Wordに貼り付けず、JPEG画像データを1枚送付してください。

TEL：03-3234-1321 機関誌「ほのお」（消防ワイド）担当：情報管理課 田中

原稿データは、honoo@ffa-j-shobo.or.jpに送信願います。

ご投稿をお待ちしております。

※添付ファイルの容量が5MBを超える場合は、分割して送信願います。

週間情報への投稿は企画課へ！

週間情報では、各消防本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せください。

記事の投稿に関する注意点

- ・配信日（原則火曜日）に近い時期のイベント、訓練等を中心に掲載しています。
- ・文章は、Wordで200字～400字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、1枚～2枚をWordに貼り付けて送付してください。
（貼り付けできない場合は、JPEG画像データを送付してください。）
- ・掲載が決定した場合のみ、担当者よりメールを返信させていただきます。

TEL：03-3234-1321「週間情報」担当：企画課 菅原

原稿データは、weekly@fcaj.gr.jpに送信願います。